１）感染管理薬剤師（専従）の「Antimicrobial Stewardship」への関わり
ー抗菌薬の適正使用支援の実際と今後の課題ー

[1]岩手医科大学附属病院　医療安全管理部　感染症対策室

○小野寺 直人[1]

抗菌薬の適正使用を推進することは感染症治療を行う観点から重要で、適切な抗菌薬の選択・投与量・投与期間などや安全性に配慮した使用が求められている。また、抗菌薬の不適切な使用は、耐性菌の出現や使用量の増加が医療費の増大につながることから、公衆衛生上はもちろん医療経済的にも、早急かつ継続的に取り組まなければならない。しかし、わが国における抗菌薬の投与は医師の個人的経験に基づいて行われている場合も多く、不適切な抗菌薬の使用が問題となっている。一方で、専門的に感染症診療に関わる医師が少なく、抗菌薬の適正使用への取り組みは十分ではない。岩手医科大学附属病院（当院）では、各科の兼任の医師（ICD）を中心としたICTが抗菌薬の適正使用に関わっているが、十分な時間を取れない状況である。このような状況の中で抗菌薬適正使用の推進するために、感染管理薬剤師の効果的な支援が必要である。

近年、IDSA/SHEA などが提唱している抗菌薬管理のためのプログラム作成ガイドライン（Antimicrobial Stewardship Guideline：ASG）が公表された。このASGでは、感染症治療に関する教育を受けた感染症専門医や臨床薬剤師を中心とし、臨床微生物学者や感染管理専門家などを加えた「抗菌薬管理チーム」を設置することが推奨されている。さらに、効果的な介入とフィードバックを行うことを中核的な戦略と位置付け、使用制限および医療費抑制の観点から採用品目の制限や許可制の導入を推奨している。また、補足事項として、抗菌薬に関する教育やガイドラインの利用、抗菌薬専用オーダーシートの利用、特定の感染疾患に対する併用療法、de-escalation やターゲットを絞った抗菌薬の合理化、PK-PD 理論などに基づいた抗菌薬投与の最適化、経口薬へのスイッチ療法などを組み合わせたプログラムである。この ASG の概念をそのまま取り入れるとこは現実的ではないが、参考にすべき点は多い。

本シンポジウムではAGSの推奨事項を踏まえた感染管理薬剤師（専従）の「Antibiotic Stewardship」への関わりとして、当院における抗菌薬の適正使用支援の実際と今後の課題について述べたい。

【抗菌薬の適正使用支援の実際】

1. 抗菌薬適正使用ラウンド対象患者の提案と患者基本情報の収集
2. 抗菌薬療法に関する教育・啓発活動支援（研修会の設定および研修医や看護師に対する抗菌薬に関するレクチャーの実施）
3. 組織的な抗菌薬適正使用策の整備（広域抗菌薬の長期投与例介入策）
4. 抗菌薬使用量サーベイランスの実施とフィードバック
5. 抗菌薬のTDMの活用やPK-PD理論の提案

【今後の課題】

感染症専門医がいないことや時間的問題から、十分な感染症コンサルテーションができていない。また、各職員の抗菌薬適正使用に対する認識が不十分であることから、今後、抗菌薬管理チームの育成とともに、教育の強化や抗菌薬療法等に関するコンサルテーションシステムの構築、的確な抗菌薬使用マニュアルの整備が必要である。